

宮前保育園の理念は「子どもが最も大事にされ、豊かに育つために、家庭への支援を行いながら、園と家庭が一体となって最善の保育を行うこと」を目指しています。

保育方針は「一人ひとりを大切にし、自分に自信が持てる子どもを育てる保育をします。」
さまざまな体験を通して、人との関わりを豊かに持ちながら、自ら考え行動し、生活する力の基礎を育てます。

保育目標は

- ・基本的な生活の仕方を身に付けます。
- ・全身を使って元気に遊ぶ子どもを育てます。
- ・自分も友だちも大切にし、困った事にも立ち向かえる意欲的な子どもを育てます。
- ・感じたこと、思ったこと、想像したことをのびのびと表現する子どもを育てます。

大切にしていることは

安心して保育園にあずけていただく

- 1 新入園児は初めて保育園に入園します。お家では1対1でお母さんといたのが、大きな集団に入り先生もいっぱいではびくつきしてしまうので、保育園では0歳児から2歳児までは担当制をとっています。

0歳児 6名を（3対1）2名の保育士と看護師

1歳児 8名のところ待機児の関係で11名を（5対1）3名の保育士・・・新入児5名・

2歳児 18名のところ待機児の関係で20名を（6対1）4名の保育士・・・新入児9名

- * 担当制の良いところは、少人数を担当するので、お子さんは食事や排泄・お昼寝や遊びなど担当の先生に食べさせてもらったり、一緒に遊びながら・見守られながら信頼関係を築いています。

幼児は3歳児定員23名なので新入児は3名、4歳児は24名なので新入児は1名、5歳児は新入児は入りませんが3歳児までに基本的な生活習慣（着替えや食事の仕方・午睡）が身につく、自信をつけていろいろなことに挑戦する5歳児になります。

5歳児は福祉絵本を活用して、エコロジーやいろいろな人（目の不自由な人・耳の聞こえない人・車椅子の人）がいる事、世界の文化やことばなども学びます。

- 2 食育活動も盛んで、野菜を育てたり給食の食材を使って下ごしらえを（3・4・5歳児が）しています。下ごしらえをすることで食材の名前を覚えたり、苦手な野菜を一口食べたり、栄養に関心を持ったりしています。

また、昔ながらの行事（お月見だんご作りや芋煮会、七草粥、鏡開き、お餅つきなど）や味覚体験も取り入れています。保育園給食のダシは、カツオやこんぶ・にぼし・とんこつ・鶏がらなどから取り、国産の食材や手作りを心がけています。

- 3 体力が落ちている（腕や足が弱い・腹筋背筋が弱い・すぐ転ぶ等）現在では体力づくりのひとつとして、リズムあそび・リズム運動をしています。リズムをすることで、のびのびと躍動する手足の筋肉、その筋肉から脳に伝えられる微妙で強力な刺激。人間らしい喜びと誇りに輝く子どもの表情が生まれます。

また、クラス単独散歩やたて割り（他のクラスと）での散歩に行っています。保育園ならではの小さな子の面倒を見えています。

- 4 障がい児保育や手をかけてあげる事で伸びる児（自分をコントロールできない・話が聞けない・大きな声のでてしまう等）の保育にも力を入れています。

狛江市では（38年前から）早くから佐々木正美先生を相談役に親子相談や講演会をして頂いてきました。

また、2～3年前からは巡回相談として、心理・言語・作業療法士の先生方から実際に子どもたちを見てもらい適切な対応の仕方についてアドバイスを頂いています。

- 5 運動面・言語面・社会性などは、運動会や発表会・保育参観や保育参加・個人面談等の行事を通じてお子さんの発達等の共有をしています。また、親御さんの心配事や希望なども話し合っています。

- ・保育参観は変装して見て頂く（0・1・2歳）

- ・保育参加は親も参加して（リズム・ゲームなど）見て頂く（3・4・5歳児）

6 その他

- ・保育園以外の支援としては、園庭開放や育児相談・親子体験・妊婦さん見学などを実施しています。
- ・公立各園で行われる講演会や実技などの研修を私立保育園・認証保育所・保育ママさんなどにも声をかけています。
- ・年長交流は私立保育園にも声をかけて小学校への不安を少しでも減らしています。
- ・アレルギーマニュアル・感染症予防・しらみ対策・緊急時対応などしっかりしています。
- ・公私立認可保育園合同で毎年10月末ごろに保育展を市役所ロビーで実施しています。